

Okun

ありがとう = ၀ီၵီၵီၵီၵီ

16年間の感謝を込めて

子どもが
売られない
世界を
ありがとう。



16年間の感謝を込めて

Okun

ありがとう = អរគុណ

Okun(オークン)とは、カンボジアの言葉で「ありがとう」という意味です。2002年の団体設立から16年。様々な困難がありつつも、カンボジアで「子どもが売られる問題」は、ほとんどなくなりました。それは、私たちのミッションに共感してくださった皆さまが「子どもが売られない世界をつくる」ために様々な形で力を貸してくださったからです。かものはし全員から皆さまへ、心からの「Okun」を。



子どもが売られない 世界をつくる

For a world without child sex trafficking
and sexual exploitation.

私たち、かものはしプロジェクトは
「子どもが売られない世界をつくる」ために、
16年前、カンボジアから歩み始めました。

最貧困家庭から出稼ぎに出て、
被害にあうリスクを減らすための
コミュニティファクトリー事業や、
孤児院支援、警察支援を通し、
カンボジアで

「子どもが売られてしまう問題」の
解決の道筋をつくることに貢献しました。

父との時間を、
ありがとう。

LOUNH EAB

【ローイン・イアップ】



私は、母親を早くに亡くしました。父は精神的な病気を抱えていて支えが必要な状態でした。私は日雇いの仕事を転々としながら働き続けていましたが、それでも十分にお金がなく、父親も協力的ではなかったのでいつも兄弟の家に行って食事をしていました。そんなとき、村長さんからかものはしのことを教えてもらい、働き始めました。ファクトリーで自分で安定してお金を稼ぐことができることが、何よりも嬉しいです。稼いだお金で少しでも父の力になりたいくて、今は家にもよく帰り、父とできるだけ多くの時間を一緒に過ごしています。以前より会話も増えました。これからも父を支えるために、もっともっと、頑張りたいです。



2歳になる娘といっしょに。ファクトリーがある日は、彼女を親戚の家に預けて働いている。

LOUNH EAB

【ローイン・イアップ】

2011年からファクトリーで働き始め、今やSALASUSUの生産を支える重要なメンバー。黙々と働く職人肌タイプだが、ライフスキルトレーニングのトレーナーにも自ら手を上げ、苦戦しつつも日々頑張って研修を受けている。

ここで働く機会を、
ありがとう。

THEA DAMLOP

【ティア・ダーモロップ】



私の家は兄弟も多かったため、ファクトリーで働く前は本当に貧しく、住んでいる所も家と呼べるものではありませんでした。村長さんからかものはしのことを教えてもらい、安定した収入を得ながら様々なことを学ぶことができると聞き、ずっとここで働きたいと思っていました。まだかまだかと待ち望んでいたのも、かものはしで働けると決まった時は本当に嬉しかったです。まずはとにかく必死で、目の前の仕事を頑張りました。家からファクトリーはとても遠かったけど、働けることが嬉しくて、自転車で頑張って通勤しました。できないこともたくさんあるけれど少しずつできるように、がんばり続けたい気持ちです。今の仕事ができる、本当に嬉しいです。



この日はい草のマット織りのチームを手伝う。働き始めて8年、できる作業の幅も大きく広がっている。

THEA DAMLOP

【ティア・ダーモロップ】

2010年から働き始め、現在はミシンチームの担当。寡黙だけど頑張り屋で、ミシンチームを力強く支えてくれている。ものづくりを担当しながら、彼女もライフスキルのトレーナーになるべく挑戦中。

自分を支える
自信を、
ありがとう。

POTRA

【ポッ・ラー】



ファクトリーには素晴らしい仲間がたくさんいて、働いていた時は本当に幸せでした。ライフスキルやものづくりのスキルなど、たくさんのことを学び、自信をつけることができました。今の新しい職場で大変なことがあると、いつもファクトリーで働いていた時の思い出が蘇ります。コミュニティファクトリーでの経験や、仲間たちと過ごした時間を思い出すとあたたかい気持ちになり、私も頑張ろう、まだ頑張れる、と仕事のモチベーションが湧いてきて、常にチャレンジする気持ちを沸き立たせてくれます。だからこそ、今も新しい仕事でがんばられています。ファクトリーで得た自信や経験が、今の私を支えています。本当に、ありがとう。

POTRA

【ポッ・ラー】

2012年からファクトリーで働き始め、家族を支える。2017年5月に卒業。スクール事業の卒業サポートサービスを活用して、現在、元スタッフが運営するケータリング会社でアシスタントを担当している。



ポッ・ラーも含めファクトリーから卒業した女性が3人が働く。農村部のファクトリーの仕事から都市部の仕事にステップアップした彼女たちは、働きながらも笑顔が絶えない。

カンボジアの社会を
よくしてくれて、
ありがとう。

KHEIV SOPHEAP

【キウ・ソピアップ】



かものはしで働き始めて、10年になります。何よりも皆さんに伝えたいのは、カンボジア社会を良くすることに貢献してくれてありがとうという感謝の気持ちです。みなさんの支援は、カンボジア社会にいる脆弱な状況にあるたくさんの女性たちを救ってくれました。私の地元の村にいる女性たちをもです。皆さんのサポートのおかげで、多くの女性たちがライフスキルを身につけ、安定した給料をもらうことができ、家族を支えることができます。私は皆さんが支えてくれたこの10年を一生忘れないでしょう。かものはしがカンボジアにいるたくさんの女性の力になってくれていることがすごく嬉しいし、私もその一員として働けて、本当に幸せです。

KHEIV SOPHEAP

【キウ・ソピアップ】

2009年から働き始める。総務部門、スクール部門、会計部門など多岐に渡る業務を経験し、現在は財務のジュニアマネージャー担当。どんな仕事に対しても責任感が強く、頼り甲斐のあるスタッフ。子連れで毎日出勤。



カンボジア、シェムリアップの市内にある事務所で働く様子。パソコンの画面を見つめる表情は、いつも真剣そのもの。

新しい夢を、
ありがとう。

SOEURM SAROU

【スウーン・サールー】



ファクトリーで働く前は、大変なことがたくさんありました。借金を背負い、家計もとても苦しかった。でも、ここには難しいことから逃げずに、前向きに頑張っている女性がたくさんいました。トレーニングでも前向きである大切さを学びました。彼女たちを見て、私もネガティブになって諦めるのではなく、とにかく明るく前向きにしようと思いました。トレーニングで発言することも、最初は緊張してできなかったけど頑張っただけ発言しました。それを心がけていると、私の人生もどんどん前向きになっていきました。そんな私には今、仕立て屋として自分のお店を開くという新しい夢があります。その夢を叶えるため、これからも前向きに頑張っていきたいです。



先輩の女性たちとおしゃべりしながら、い草を選別する。まだあどけない表情が残りつつ、一生涯命仕事に向き合う姿が印象的。

SOEURM SAROU

【スウーン・サールー】

2017年に働き始めた新入生。母親の病気の医療費が非常にかかり、多くの借金を背負っている。持ち前の明るい性格で努力を続け、今や先輩の女性たちが難しいと感じている仕事もできるようになってきた。



機会を与え
続けてくれて、
ありがとう。

CHHUT SAN

【チョッ・サン】

私はこれまで応援して下さった皆さんにとっても感謝をしています。私は2017年にファクトリーを卒業し、今はホスピタリティーを勉強するための職業訓練校で勉強しています。様々な分野の勉強をする中で美容に興味を持ち、今はその訓練校でスパのやり方や、サロンでの振る舞いを勉強しています。もうすぐ研修期間が終わり、働き始める予定です。今日に至るまで、かものはしがたくさんの成長の機会や、仕事の機会、チャレンジする機会を与えてくれたからこそ、私はこのチャンスをつかみ、自分の未来を切り開くことができました。私のように、明るい未来を作っていける女性がファクトリーからどんどん輩出されることを心から願っています。



彼女が毎日学ぶ訓練校の前で。休憩時間の合間をぬって、撮影に協力してくれた。嬉しそうな彼女の目は、前向きなエネルギーでいっぱいだった。

CHHUT SAN

【チョッ・サン】

2011年からファクトリーで働き始め、2017年に卒業。現在、ホスピタリティーを学ぶ職業訓練校のSALABAIで勉強に励んでいる。2018年8月に11ヶ月の研修を終え、新しい仕事にチャレンジする予定。

笑うことができる今を、
ありがとう。

LORM SEAK

【ローム・スィアック】



私の父は家で暴力を振るう人で、借金もあり毎日の生活はとても大変でした。そんな中、家族の支えがあつてものはしのファクトリーで働けると決まったとき、とても嬉しかったです。最初は新しい場所で働くのが怖くて、恥ずかしくて、わからないことがあつても質問できませんでした。でも、周りにいるスタッフはずっと私を励まして、とにかく何かあったら聞いて、恐れなくて、と言い続けてくれました。そのおかげで少しずつ聞けるようになり、それとともにできることも少しずつ増えていきました。バッグがうまく縫えた時は、とても嬉しかったです。一緒に働くみんなと話していたら、笑うことも多くなりました。笑って過ごすことができるこの場所に、とても感謝しています。



一つひとつのバッグを、丁寧に縫っていくスィアック。ファクトリーでは工程がいくつかに分かれ、何人もの女性たちが関わって一つのバッグができあがる。

LORM SEAK

【ローム・スィアック】

アルコール中毒を患う父親からはファクトリーで働くことも反対されたが、母親や他の親戚の助けがあり、2017年からミシンチームで働き始める。働き始めてまだ1年だがSALASUSUのサコッシュは彼女がいないと作れないほど。

ファクトリーに
行ける毎日を、
ありがとう。

SOK TOUCH

【ソク・トゥーイ】



ファクトリーで働く女性たちのドライバーとして、送り迎えを担当してきました。毎日彼女たちを見ていて、元気な時もあれば、そうでない時もありました。今日はどうかな。明日はどうだろう。心配に思うこともたくさんありました。それでも諦めずに毎日頑張っファクトリーに来て、努力を重ねる彼女たちは少しずつ、たくましく、力をつけていきました。すぐ側でそんな彼女たちの成長を見守ることができて本当に嬉しかった。自分も、そんな彼女たちがより成長し、社会に羽ばたいていく力になりたいと、ライフスキルトレーナーとしても努力を続けています。そんな機会を私に、また彼女たちに作ってくれた皆さんに心から感謝しています。本当に、ありがとう。

SOK TOUCH

【ソク・トゥーイ】

2013年よりファクトリーで働き始め、5年間ドライバーとして、毎日働く女性たちを農村の家からファクトリーに送り届ける。かものはしに入職する前、家の近くで英語を教えた経験を生かし、ライフスキルトレーナーとしても現在活躍中。



毎日10人ほどの女性たちが、彼のバイクの荷台に乗り、ファクトリーまで働きに来ている。

楽しく過ごせる毎日を、
ありがとう。

SY SOKSAN

【スィー・ソクサン】

私の母は病気がちで、私は母を助けるために毎日日雇いの仕事を転々としていました。ある日、私の家が火事になってしまった、これまで大切にしてきたものの全てがなくなってしまいました。その時はとてもショックで、母親の病気も悪化し、どうしたらいいかわからなくなりました。そんな時、かものほして働き始めました。最初は毎日不安だったけど、ここでたくさんのトレーニングを受けて、徐々に慣れることができました。ここで受けた問題解決トレーニングは、これまで学校で誰も教えてくれなかったことで、とても役に立っています。結婚して子どもも産んで、簡単なことばかりではないけれど、毎日楽しく過ごせることに、とても感謝しています。

SY SOKSAN

【スィー・ソクサン】

SALASUSU生産の重要なパートを担う中心的な女性。前向きでとても明るい性格。結婚して今は一児のお母さん。ファクトリーに併設している託児所に子どもを預け、働き続けている。



一緒にはたらくみんなと。一緒に働く仲間の存在も、ファクトリーではとても大きい。

誰かの役に立つ
機会を、
ありがとう。

VEAK LEY

【ヴェック・ライ】



2017年、初めて後輩の女性の指導を担当することになりました。彼女は頑張り屋だけど、い草を選ぶ作業がうまくできずに苦戦していました。私は自分がファクトリーで働き始めた頃を思い出し、どんなことを、どんな風に教えたらいいか、必死に考えながら、彼女が安心できるようにと丁寧に教えていきました。少しずつ彼女のできるものが増えていって、それと共に笑顔が増えていくのはとても誇らしいことでした。そして、ついに彼女が訓練生から次のレベルであるワーカーポジションに昇格できたのです。彼女に指導する経験を通じて、自分も誰かの役に立てたことが本当に嬉しかった。もっともっと、誰かの力になれるように頑張っていきたいです。

VEAK LEY

【ヴェック・ライ】

父親を早くに亡くし、ずっと内職で日銭を稼いでいた。コミュニティファクトリーがスタートした2008年から働き始める。元気いっぱい、思いやりのある優しいキャラクターで、先輩を献身的に指導している。



チームのみんなとい草を選別している様子。一つひとつ丁寧に、い草をチェックしていく。

カンボジア女性たちへの
愛情を、
ありがとう。

KHLOEUT SOCHET

【コーン・ソチェット】



たくさんの情熱と熱意で、私たちを支えてくれて本当にありがとう。皆さんの強い想いや、遠く離れたカンボジアの女性たちへの愛情は、私がここで働くモチベーションになっています。私はファクトリーの女性たちと接する中でたくさんのことを学んできました。彼女たちにうまく気持ちが伝わらず、もどかしく難しいこともありましたが、私も彼女たちへの愛でこの仕事を続けてこれました。こうやって多くの人々の力になるかものはして働けることはとても誇りです。私たちは常に前に、前に進み、より多くの女性たちの力になりたい。その道をこれまで一緒に作り、これからも一緒に作っていくのは、これまで応援してくれた皆さんです。本当にありがとう。

KHLOEUT SOCHET

【コーン・ソチェット】

自分の村の人たちの力になりたいと、かものはしに入職。当初は英語やPCも苦手だったが、とても努力家で実行力の強い頼れるスタッフ。働く女性たちからの信頼は厚く、カウンセリングやトレーニングを担当、スクール事業の中核を支える。



現地日本人スタッフの亀山とともに。スクール事業の中核を担う2人の中には、深い信頼関係が築かれている。

問題解決の
力になってくれて、
ありがとう。

CHEA HENG

【チェー・ヘイン】

TOUCH NAVORN

【トゥーイ・ナヴォン】



カンボジアでは「子どもが売られる問題」の被害はとてまもなくりました。かものはしが資金を提供してくれたおかげで、警察官はトレーニングを受けることができ、どうやって調査をし、加害者を逮捕するのか、どうやって被害者にインタビューをするかなどを学ぶことができました。かものはしの良いところは、資金提供をするだけでなく活動に参加し、一緒に活動を支えてくれるところです。かものはしの支援で購入した備品は今もここにあり、引き続きとても役に立っています。かものはしをはじめ、世界中の多くの人や団体の支えがあって、カンボジアの状況はすごくよくなりました。この問題を解決するために力を貸してくれて、本当にありがとう。

CHEA HENG

【チェー・ヘイン】

TOUCH NAVORN

【トゥーイ・ナヴォン】

カンボジア警察にて、AHTJP (Anti Human Trafficking Juvenile Protection) という子ども的人身売買犯罪を専門に扱うチームで働く。



2人と話す本木と村田。現在のシェムリアップの状況をわかりやすく説明してくださり、今回のインタビューにも、快く協力してくれた。

家族と自分の人生を よくするための機会を、 ありがとう。

REM HING

[レム・ヒン]

私は姉2人、妹2人の5人兄弟のちょうど真ん中です。私は勉強が大好きでしたが、小学校6年生でやむなく学校を中退しました。せめて中学校を卒業できていたらと今も思いますが、母を病気で亡くし、父は別の家庭を持つことになり、兄弟で力を合わせて生きていかなければならず、仕方のないことでした。学校を辞めてからは、農作業を手伝って日銭を稼ぎました。上の姉2人も妹の1人も、小作人として働いていて、苦しい生活でした。



REM HING

[レム・ヒン]

2009年からファクトリーで働き始める。現在一番人数の多い、い草のマット織りチームのリーダーとして活躍中。持ち前の明るさと笑顔で、チームを引っ張っている。

最初は大変でしたが、 1年後にはリーダーに昇格できました。

そんな時、近所の友達からかものはしのファクトリーの話聞き、2009年の8月から働けることになりました。家の近くで安全な仕事につけることがとても嬉しかった。でも、最初は仕事に慣れることができずとても大変でした。入ってすぐに担当したい草の染色のチームでは、自分の背が低くて鍋にい草を入れる作業すら難しく、続けられるのかとても不安だったのを覚えています。その後、い草のマット織りのチームの一員となり今に至ります。



私は商品の重要な部分となるマットを、誰よりも早く、多く、そしてきれいに織り上げるために、おしゃべりをしないで黙々と作業に集中することを心がけました。その努力が認められて、1年後にチームリーダーに昇格することができました。でも最初はどうしていいかわかりませんでした。チームメンバーの中にはたくさんの私より年上の作り手たちがいたからです。自分が成果を出すだけではだめで、全然協力を得られない。



妹が学校に 通い続けられていることが嬉しい。

それでも、ライフスキルトレーニングで学んだことを活用し、日々メンバーのみんなに積極的に声をかけ、コミュニケーションをとって信頼を築いていこうと努めました。その甲斐あって、今は一番人数の多いチームのリーダーとして楽しく働いています。このファクトリーで、ライフスキルについて学ぶ機会にも恵まれ、仕事をする仲間にも出会え、そして商品を作ったお給料で、一番下の妹がずっと学校に通い続

けられていることを心から嬉しく、誇りに思います。私ももっとスキルを磨きたいけれど、学びたいという願望だけでは家族を支えられない。だからファクトリーで学ぶ中で力をつけて、もっともって貢献できる人間になって、自分と家族の人生をより良いものにしていきたいです。私の人生にこんな素晴らしい機会をくださったみなさんに心から感謝しています。たくさんのOkunを皆さんに伝えたいです。

STORY OF
REM HING



16 YEARS in CAMBODIA

かものはしプロジェクトがはじまった
2002年から16年間、カンボジアで
「子どもが売られない世界をつくる」
ために、様々な活動を行ってきました。

For a world without
child sex trafficking
and sexual exploitation.

since 2002



かものはしプロジェクトが
はじまる。

2002



カンボジアで事業を
行うことを決定。

2003



孤児院の子どもを対象とした
IT事業/PCスクールを開始。

2004



農村部の貧困層への
支援にシフトする
ことを決定。

2005



現地NGOと共同で
コミュニティファクトリーの
立ち上げに着手。

2006



初年度は38名の女性たちを迎え、
ファクトリーを運営。

2007



かものはし独自運営の
ファクトリーを
新たに立ち上げる。

2008



子どもを買わせないための
警察支援を開始。

2009

IT事業&PCスクール:2002~2005年
(IT事業は2011年まで継続)

コミュニティファクトリー経営:2006年~現在



孤児院の支援を2009年より開始。
毎年50人を継続的に支援。

2010



い草商品の直営店
第1号店オープン!

2011



貧困ライン以下の人口割合が、
2008年の34%から、
2012年の18%へ減少。

2012



安心して働けるよう、
給食と託児所をスタート!

2013



カンボジア社会の発展とともに、
子どもが売られる問題の
被害は減少傾向に。

2014



カンボジア事業の自立を決断。
初の卒業生も輩出。

2015



デザインを一新した、
新しいブランドの立ち上げ。

2016



生きる力を身につける、
ライフスキルトレーニングが
軌道に乗り始める。

2017



かものはしからの
自立を実現!

2018

Continuing in
Cambodia as

SALASUSU

「カンボジアの女性たちの
人生の旅を応援する」という
新しいミッションに向かって。

コミュニティファクトリー経営:2006年~現在

孤児院支援:2009~2014年

警察支援:2009~2015年

カンボジアに 「子どもが売られない世界」を ありがとう!

Thank you for your support!!
From all members of Kamonohashi



2017年度、カンボジア事業部はかものはしから自立しました。
すべては、皆さまのあたたかく力強い応援のおかげです。
子どもが売られる問題がなくなった世界のその先をつくるため、
カンボジア事業部はNPO法人SUSUとして活動していきます。

カンボジア事業部= SALASUSU

これからの取り組み

1

Life skill training

ものづくりを通じて、
自立的に生きる女性を育てる。

村に雇用を創出し、子どもが売られるリスクを軽減する事業として運営してきたコミュニティファクトリー。現在はものづくりを通じて女性たちが生きる力(ライフスキル)を身につけ、次へ羽ばたいていける人材に育てる事業として変化しています。ライフスキルとは簡単にいうと「頑張るための技術」。日本では義務教育や日常生活の中で、物事に取り組む姿勢や適切な人間関係を築くための振る舞いを自然と身につける機会が多くありますが、

カンボジアにはそうした機会がないまま社会に出る女性が多くいます。トレーニングを通じて、女性たちが経済的・精神的に自立して生きていくライフスキルを身につけ、社会へ羽ばたいていけるようになっています。また、ファクトリーで独自に開発したトレーニングのノウハウをカンボジアの企業や政府、他NGOに対して横展開し、より多くのカンボジア人、ひいては世界中人たちのライフスキルを育む力になることを目指します。





カンボジア事業部= **SALASUSU**
これからの取り組み **2**

SALASUSU



人生の旅を応援するブランド、
SALASUSU。

1-DAY TRIP TOTE



作り手と使い手が「健康的」な関係性で結ばれたものづくりを実現したい。コミュニティファクトリーから生まれた新しいブランド、「SALASUSU(サラスーサー)」は、「LIFE JOURNEY(人生の旅)」をテーマに、作り手と買い手がお互いの人生を応援するような関係性を紡いでいくことを目指しています。商品は日々の暮らしにも、特別な旅路にも寄り添うシンプル&クリーンなデザインに。一つひとつにファクトリーで働く作り手の女性

たちがスタンプを押したラベルをつけています。スタンプを押すことで、女性たちは「自分の作ったものが世界の誰かに届く」という実感を抱いています。購入してくださった方には、ファクトリーへのフリーパスチケットをお渡しし、いつか商品を持ってカンボジアを訪れてほしいと願いを込めています。作り手と買い手が顔を合わせたとき、どんな変化が起きるのか。その瞬間を楽しみに、女性たちと商品を作り続けます。

これからも、子どもが売られない 世界をつくる。

世界中にいる多くの方が「子どもが売られる問題」を解決したいと願い、様々な形で行動して下さったことで、社会が変わり、カンボジアで、売春宿に子どもが売られる問題をなくすことができました。どんなに難しいと思われる問題でも、力を合わせれば解決できる。その1人として力を貸して下さった皆さまに心から感謝しています。これからはインドで。そして引き続きカンボジアで。世界を変える一人として、共に歩んでいただけると嬉しいです。



2018年7月6日コミュニティファクトリーにて



子どもが売られない世界をつくる
認定NPO法人 **かものはしプロジェクト**

団体名 認定特定非営利活動法人かものはしプロジェクト
住所 〒150-0012 東京都渋谷区広尾5-23-5 長谷部第一ビル402
TEL 03-6277-2419
E-mail info@kamonohashi-project.net
Webサイト https://www.kamonohashi-project.net

かものはしプロジェクト

検索



S A L A S U S U

団体名 特定非営利活動法人SUSU
住所 〒150-0012 東京都渋谷区広尾5-23-5 長谷部第一ビル402
TEL 03-6277-2419
E-mail info@salasusu.com
Webサイト https://salasusu.com/ja/

SALASUSU

検索



かものはしプロジェクト「Okun」制作チーム

写真: 安田 菜津紀、木村 彩湖

企画・構成・デザイン: sai company

編集: 小畠 瑞代、後藤 愛美

撮影協力: 後藤 勇太、吉野 伸吾

Special Thanks: これまでかものはしプロジェクトにご協力いただいた全ての皆さま

子どもが売られない
世界をつくる

For a world without child sex trafficking
and sexual exploitation.